

京都市水共生プラン

～私たちの手でみずみずしい都市とくらしの再生を！～



京 都 市

はじめに

平成 15 年 3 月に、京都を中心に「第 3 回世界水フォーラム」が開催され、世界 183 の国から 24,000 人以上の方が参加し、世界が抱える水不足、水質汚濁、洪水被害の拡大などの水問題について活発な議論が交わされました。

これらの問題は、食料の輸入などを通じて世界と水でつながっている本市にとっても決して無関係ではありません。また、市内においても都市型水害の低減や自然な水循環の回復など、水について解決すべき課題があります。

そこで、京都市では同フォーラムの成果を踏まえ、京都の水問題解決に向けて継続的な取組を進めるため、水と関わりの深い各界の皆様からなる「京都市水共生プラン基本方針策定委員会」から平成 16 年 1 月にいただきました提言をもとに、この度「京都市水共生プラン」を策定しました。

このプランは、「流域全体を見据えた治水対策」、「良好な水環境の実現」、「健全な水循環系の回復」、「ゆたかな水文化の創造」、「雨水の利用」の 5 つの基本方針を柱とし、その推進にあたっては、「私たちの手でみずみずしい都市とくらしの再生」をテーマに、行政のみならず、市民、NPO、事業者等と連携して取り組むことにより歴史都市・京都が水と共に生きる都市として新たに生まれ変わることを目指していきます。

今後は、本プランを踏まえて水に関する各種取組の推進体制を確立し、具体的な行動計画の策定に取り組んで参ります。

結びに、プランの策定にあたり、御尽力、御協力いただきました「京都市水共生プラン基本方針策定委員会」の委員の方々をはじめとする関係各位及び市民の皆様に、心から御礼申し上げますと共に、今後とも、より一層の御理解、御協力をいただきますようお願い致します。



平成 16 年 3 月

京 都 市 長

ますもとよりかね
林 幸 頼 兼

目 次

1	京都の水	1
1.1	これまでの歴史	1
1.2	現状の課題	4
(1)	治水問題	4
(2)	水質問題	5
(3)	水循環系の変化	6
(4)	水に対する意識の変化	7
(5)	水資源の確保と雨水利用	8
2	水共生プランの基本的な考え方	9
2.1	基本理念	9
2.2	基本方針	11
2.3	水共生プランの位置付け	13
3	計画目標と検討・取組事項	14
3.1	流域全体を見据えた治水対策	15
3.2	良好な水環境の実現	19
3.3	健全な水循環系の回復	23
3.4	ゆたかな水文化の創造	26
3.5	雨水の利用	28
4	推進方策	30
4.1	市民・NPO・事業者・行政等の連携	30
(1)	住民参加から住民主体へ	30
(2)	行政のサポート，事業者等との連携	30
(3)	情報の公開と共有	30
4.2	行政の継続的取組	31
(1)	行動計画の策定	31
(2)	実行・検証・改善の継続的取組	31
資料		33
	用語集	33
	「京都市水共生プラン」の策定経過	37

1 京都の水

1.1 これまでの歴史

京都は市街地を取り囲む山々と一体となった水辺の風景が特徴となっています。例えば、「鴨川」や「桂川」などの名称は、それだけで京都を思い起こさせます。京都には水に関わりのある神社・仏閣、儀礼、行事が数多く、食文化においても良質な地下水・伏流水と密接に繋がっており、日常の生活の中で水の果たしている役割が大きくなっています。

朝、京都の町を歩くと、打ち水に精を出す人や丹精込めて育てた鉢植えの木々に水をやる人に出会います。このようなありふれた光景に水に関わる文化の一端を感じさせるのも、京都の特徴です。京都の文化は水と深い関わりを持って生まれ、日本の文化に大きな影響を及ぼしてきました。

今から約 1200 年前の平安京遷都は、この地が都の機能を形成させうるほど水資源が豊かであったことを意味します。右京に桂川、左京に鴨川が流れ、扇状地であるために地下水が豊富に得られました。

平安京の時代には全部で 12 本の河川が人工的に造られました。河川から邸宅に引かれた水は生活用水のほか池庭の水としても利用されました。当時整備された烏丸川、堀川、室町川等は現在も通りの名前として残っています。

明治 18 年、東京遷都で沈滞した京都を活性化させるために、琵琶湖疏水の建設が着手されました。この大規模な事業によって毎日 200 万立方メートルの水が京都に運ばれ、生活と産業を支える水や庭園の環境用水¹⁾、消火用水として利用されており、京都の地下水保全という効果も生み出されました。

京都が水のまちとして再生するためには、これまでの長い歴史のなかで培われた京都の人びとと水との細やかな関わりを今こそ取り戻す必要があります。

京都を代表する水辺の景色

【鴨川と東山の山容】



【桂川：嵐山の渡月橋】



【琵琶湖疏水：南禅寺の水路閣】



琵琶湖から京都に引かれた疏水は、水道水や発電等に利用されるとともに、多くの寺院の庭園や町並みに潤いを与えながら流れている。

【社家町の町並みと明神川の水辺】



上賀茂神社の南側に位置する社家町では、昔ながらの瓦土塀が巡らされた家並みが続いている。現在でも明神川から水を取り入れ庭内の池泉に利用して川に戻している。

【鴨川の納涼床：鴨川二条大橋から五条大橋】
明治頃の納涼床



横浜開港資料館 所蔵

現在の納涼床



提供 東京 京都館（撮影 横山健蔵）

鴨川では夏になると床が設けられ、納涼に利用されている。

【舟運：高瀬川】

明治時代の高瀬川の舟曳き



出典 写真で見る京都今昔 新潮社

現在の高瀬川



高瀬川の開削などによる舟運の発達で、京都の発展の基礎を築いてきた。高瀬川では伏見の港まで「高瀬舟」が往来し物資を運搬した。

【伏見の酒造と掘割：伏見】

昭和初期の酒蔵の掘割の様子



提供 月桂冠株式会社

現在の酒蔵



伏見は水の豊かな地であり，良質の地下水に恵まれ，古くから酒造りが盛んである。

きふね 【貴船神社】



提供 東京 京都館（撮影 横山健蔵）

貴船神社には降雨，止雨を司り，降った雨を地中に蓄えて適量湧き出させる働きをする，水を司る神様がまつられている。

【白川の水車場跡】



生活用・伝統産業の動力源（米つき，清水焼きの陶土づくり，友禅染めの糊加工，和菓子用製粉，金箔製造，友禅の艶だしなど）等として利用されていた。

1.2 現状の課題

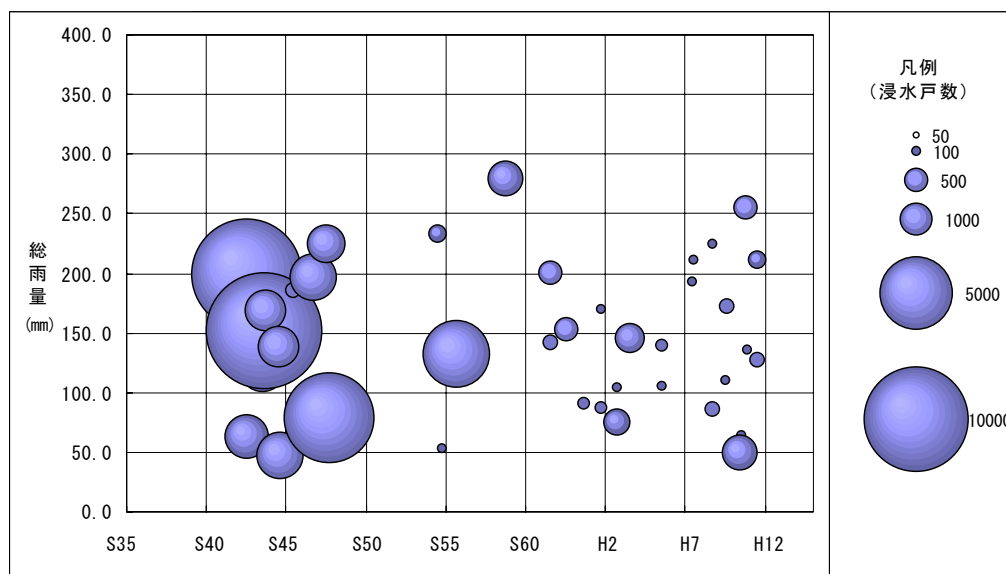
京都はこれまで、幾多の変遷を経てまちづくりが行われてきましたが、その歴史の中では水にまつわる問題への取組が重要な役割を果たしています。世界に誇る京都の文化もその水によって育まれてきました。すなわち、京都のまちは水によって支えられてきたとも言えます。

しかしながら、京都の近代化の中で都市化がさらに進行し、市街地が周辺部へ拡大するのに伴い、水との関わりも変化して様々な水問題が発生しています。

(1) 治水問題

保水・遊水機能を有している農地等が近年宅地化されてきたことに伴い、雨水流出量が増大し、河川や水路の氾濫による水害が頻発するようになりました。これまでの河川改修や下水道の雨水対策により大規模な水害は発生しにくくなってきていますが、依然として豪雨時には浸水被害が頻繁に発生しています。また、まちの中心部では地下街・地下室等の地下空間の発達により、逆に浸水に弱い都市構造となっています。したがって、河川や下水道の整備による雨水排除に頼るだけでなく、雨水の貯留・浸透の促進、森林や農地の適正な管理・保全、水害に強い地域社会づくりに向けたソフト的な手法の導入等を含む、総合的な治水対策がますます重要となっています。

- 昭和 55 年頃までは浸水戸数が 1000 戸以上という甚大な被害が毎年のように発生していた。近年は河川改修、下水道整備の進捗により浸水戸数は少なくなっているが、依然として豪雨時には浸水被害が頻繁に発生している。



京都市の主な水害発生状況



有栖川の増水（平成 11 年）

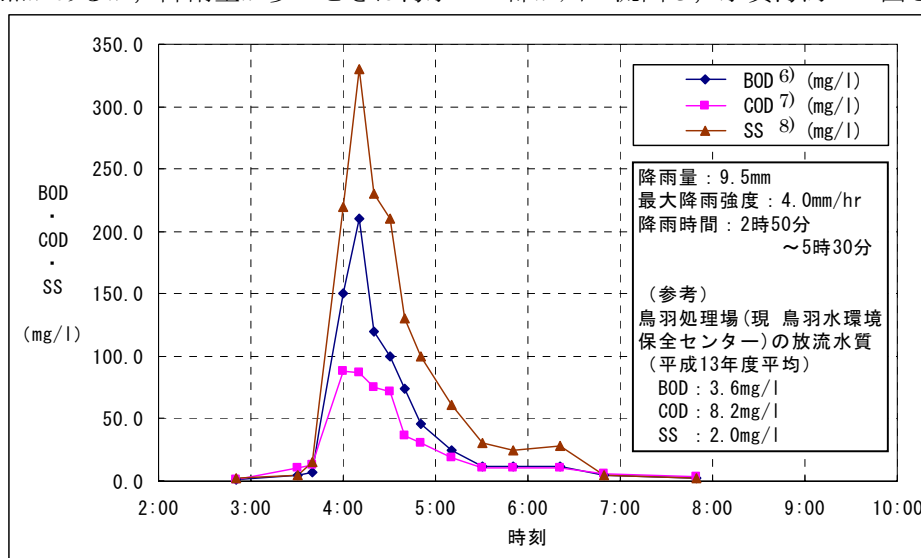


有栖川流域の浸水状況（平成 11 年）

(2) 水質問題

生活排水や工場廃水の流出により河川の水質が非常に悪化した時期がありましたが、下水道整備をはじめ工場や生活排水対策の推進により大幅に改善され、市内河川の水質環境基準²⁾は概ね安定的に達成され、淀川などの下流水域の水質保全にも貢献しています。しかしながら、市街地における降雨流出水には、様々な汚濁物質が含まれており、市街地の約40%を占める合流式下水道³⁾区域では、雨天時にこの汚濁物質を含む未処理の下水が雨水の吐き口から流出し、河川の水質や水辺環境の面で大きな問題となっています。また、環境ホルモン⁴⁾をはじめ、有害化学物質による新たな水質問題も提起されています。

- 合流式下水道は小降雨時には路面等のノンポイント汚染源⁵⁾からの汚濁負荷も処理できる利点があるが、降雨量が多いときは汚水の一部が川へ流出し、水質汚濁の一因となる。



合流式下水道からの雨天時放流水の水質（平成13年6月30日 堀川）



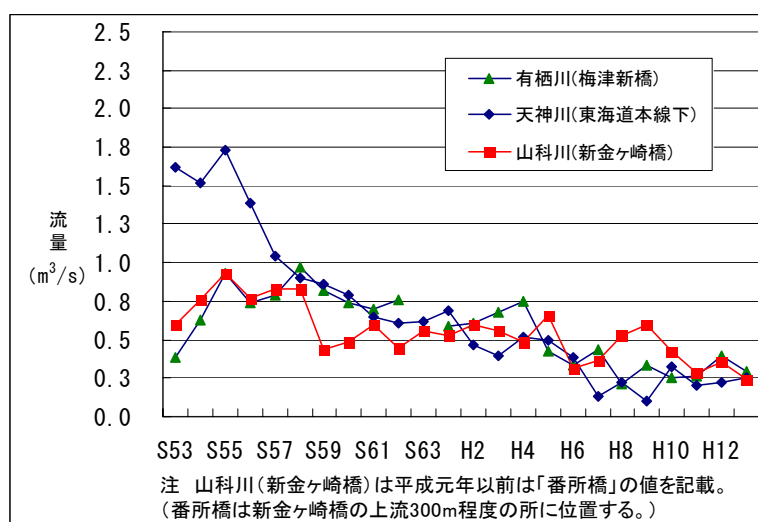
合流式下水道からの雨天時放流水（鴨川）

(3) 水循環系の変化

市街化の進行により雨水が浸透しやすい区域が減少し、流域の保水能力が低下しています。また、地下浸透量の減少による影響として、井戸が自噴しなくなり、河川の流量が減少する事態が発生するなど、問題が顕在化しています。

都市域の水循環系の変化は、このような水環境だけではなく大気環境へも影響し、市街地の気温上昇（ヒートアイランド現象⁹⁾）が生じる原因ともなっています。京都の年間平均気温はこの100年で約2.5度上昇したと言われており、熱帯夜の増加や冬日¹⁰⁾の減少が顕著になっています。

- 近年、市街化の進展等に伴い、流域の保水能力が低下するとともに、不浸透域が拡大することなどで雨水が地下に浸透しにくくなっていることから、河川の平常流量が減少している。

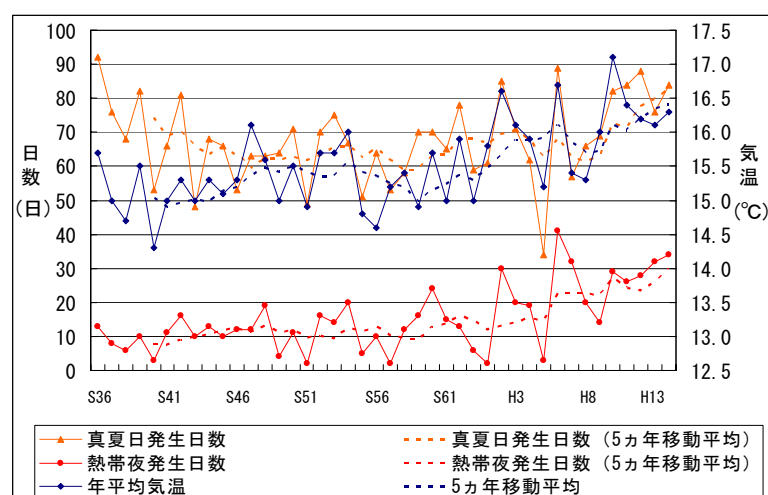


出典 公共用水域及び地下水の水質測定結果 京都市環境局

河川平常流量の推移

- 京都市の最近42年間の年平均気温は上昇する傾向にある。また、真夏日、熱帯夜の発生日数も増加傾向にある。

注 真夏日：日最高気温が30℃以上の日、熱帯夜：夜間の最低気温が25℃以上の日



出典 京都地方気象台

年平均気温、真夏日・熱帯夜の発生日数の変遷

(4) 水に対する意識の変化

市民の暮らしの中では、上下水道の完備により生活の利便性は格段に高まりましたが、それが当たり前となり、水のありがたさを実感できなくなっています。また、治水効果だけを求めた河川改修により河川から生き物の姿が減るとともに、排水路の暗渠化や舟運の衰退等が進んで、水辺が暮らしから遠のき、水自身が目に触れなくなっ
て、水への親しみが薄れてきています。さらに、治水の進展により水害が起こりにく
くなったことから、人間が水をコントロールできると過信し、水の怖さも感じにく
くなっています。そして、これらのことが地域に根ざしてきた水文化やコミュニティー
の繋がりを廃れさせる要因ともなっています。

このような水に関する人びとの意識の低下に対して、身近に多様な水の姿を求める
声も生まれ、人びとを水辺に取り戻す動きも始まっています。



従来の河川改修の例

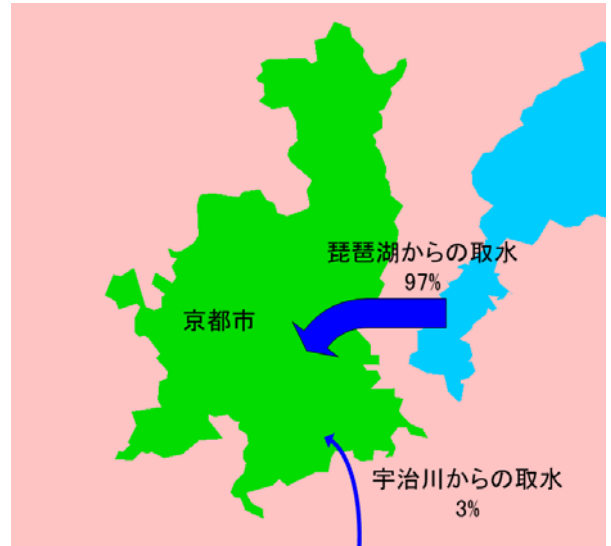


地域の小学生と住民による河川清掃（有栖川）

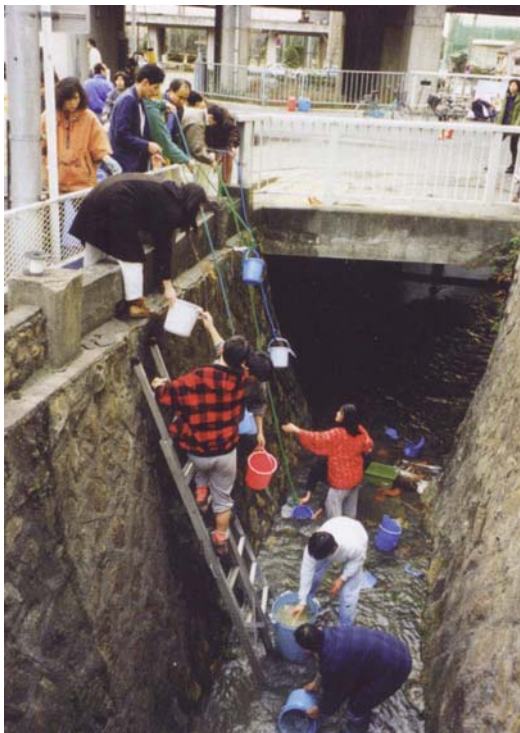
(5) 水資源の確保と雨水利用

水資源の面では、水道の水源としてその大半を琵琶湖に依存していることで、地下水の保全になっている反面、災害時にも役立つ河川水や雨水等の京都固有の水源の確保の観点からは課題があります。現在、京都市の施設の一部で雨水利用が行われているものの、その数はごく限られています。雨水利用はハード対策としての貯留や浸透に関係するだけでなく、ソフト対策としての環境学習の役割もあり、今後、市民、NPO、事業者等と連携しながら、雨水を活かすための本格的な取組が求められています。

- 京都市の上水道（山間集落の簡易水道¹¹⁾を除く）のうち97%は琵琶湖疏水によってまかなわれており、残りの3%が宇治川からの取水である。どちらも淀川水系の表流水である。

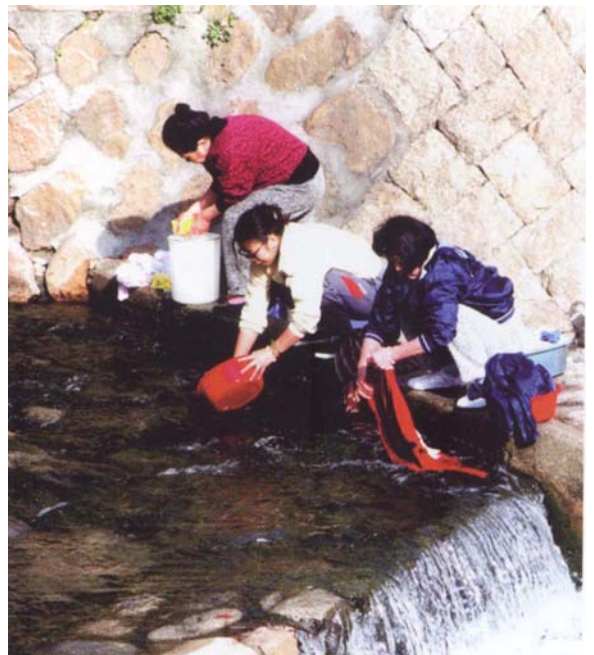


水源別取水量



出典 京都市防災水利構想（写真提供 共同通信社）

阪神・淡路大震災時に用水路から
バケツリレーで消火活動をする住民



出典 京都市防災水利構想（写真提供 読売新聞社）

阪神・淡路大震災時に
必要に迫られて川で洗濯する主婦

2 水共生プランの基本的な考え方

2.1 基本理念

京都市水共生プランは、前節で述べた現状の課題を踏まえて、水に関する継続的な取組を目指すものです。

京都市ではこれまでも河川、道路、下水道、都市計画、環境、消防、農林等の行政の各分野・部門で策定された基本計画の中で、雨水の貯留や浸透・利用にかかる取組を施策の一つとして位置付け、それぞれの分野・部門で取り組んでいます。特に、雨水貯留については、河川・下水道の貯留施設が浸水対策に大きな役割を果たしています。

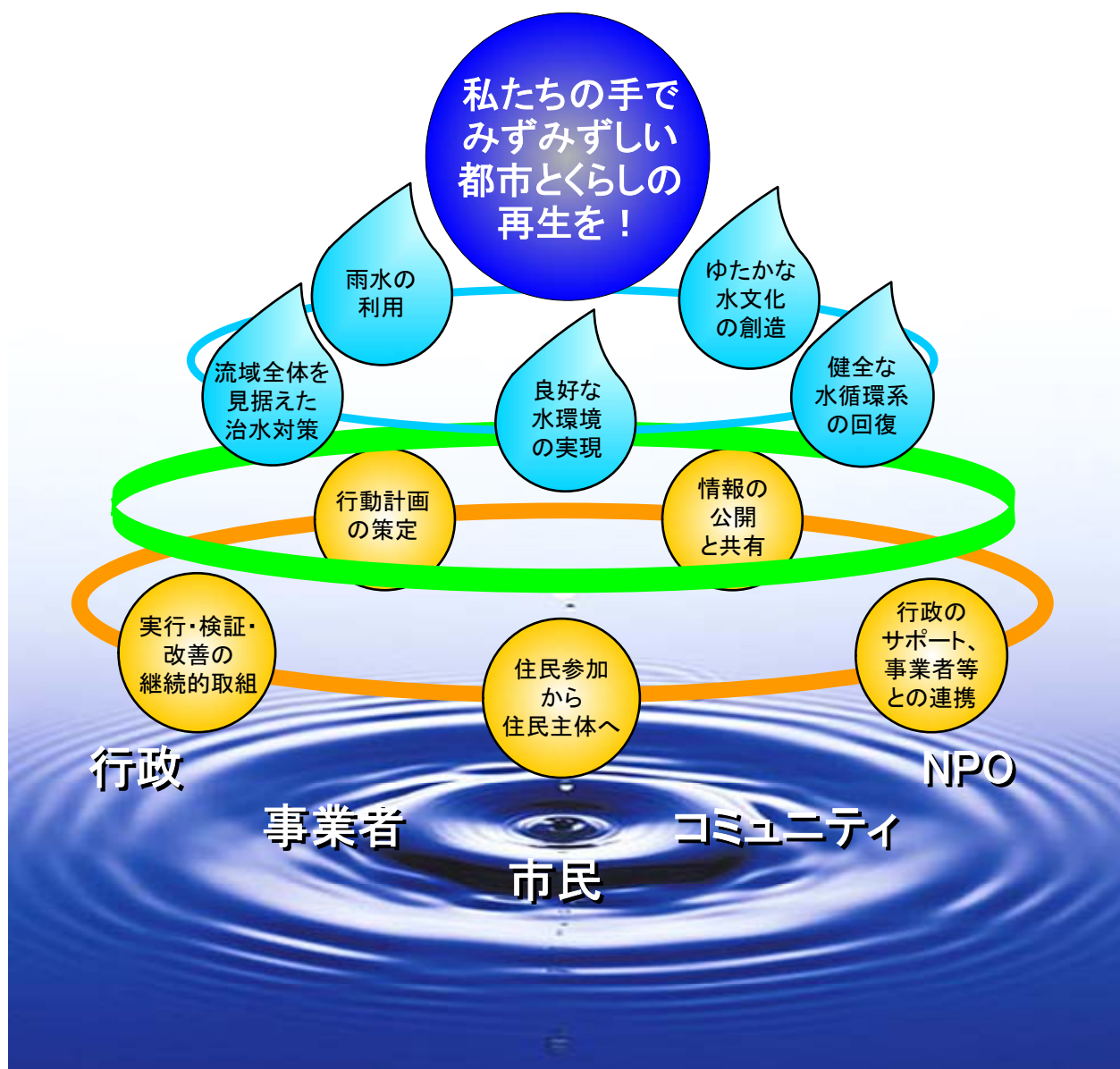
しかしながら、課題への対応については、

- 市政の多くの分野にまたがり、全庁的な取組が求められる。
- 行政のみならず、市民・NPO等の主体的な役割が非常に重要である。
- 雨水利用や地下水保全など新たな政策課題への対応が必要となっている。

そのため、「水と共に生きる」という水共生の理念のもと、市民・NPO、事業者、行政等が互いに連携して、京都が抱える様々な水問題の解決に向けて粘り強く取り組んでいかなければなりません。

このことは、まさに、今後の京都のあるべき姿を市政の主役である市民の視点から描く「京都市基本構想」の理念と合致するものであり、「京都市水共生プラン」を同基本構想に基づく水に関するマスタープランとして位置付け、行政と市民・NPO、事業者等がそれぞれの役割を認識し、互いに連携しながら取組を進めていくこととします。

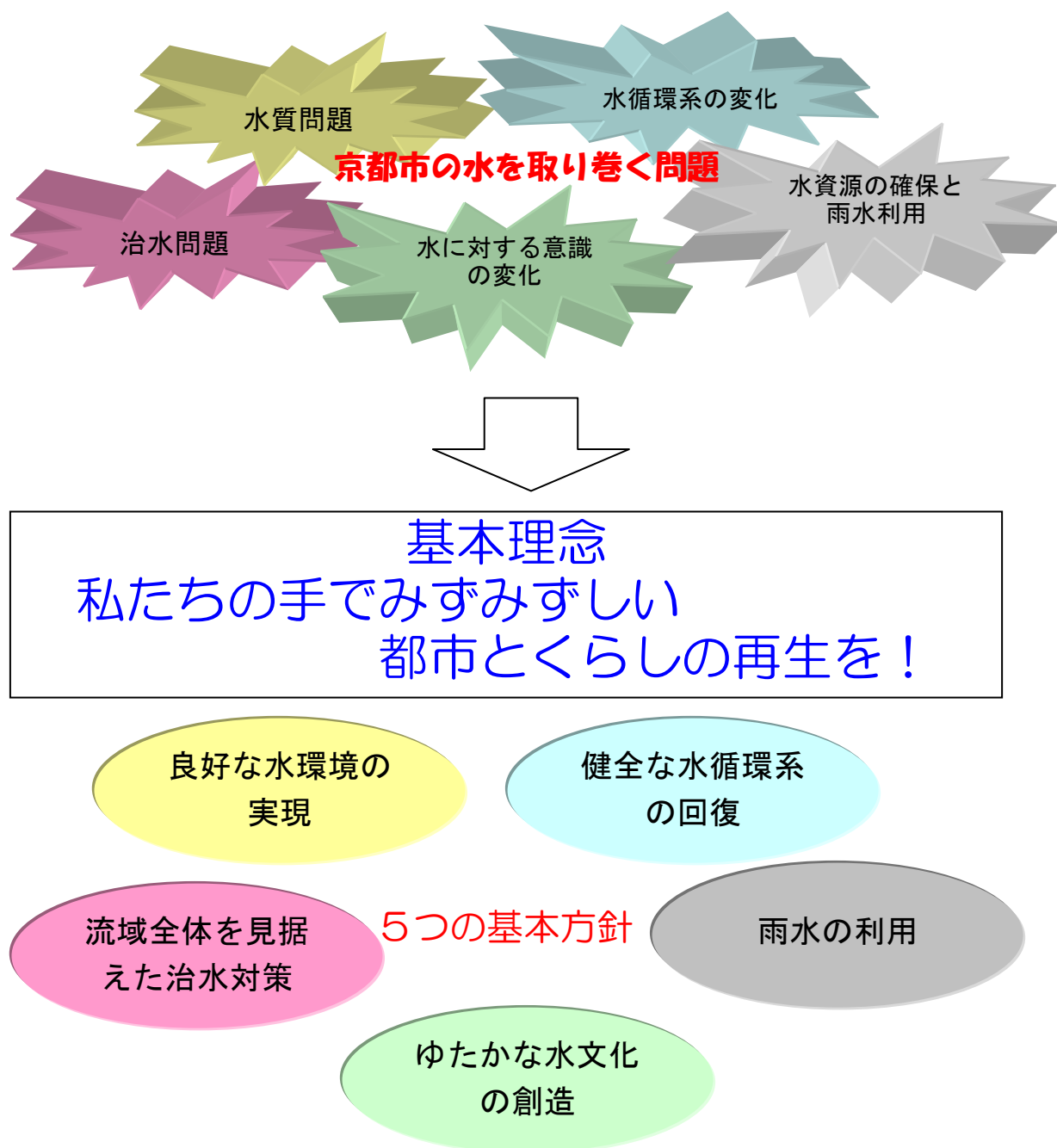
したがって、京都市水共生プランは「私たちの手でみずみずしい都市とくらしの再生を！」を基本理念に掲げます。



水共生プランの全体構成

2.2 基本方針

京都市の水を取り巻く諸問題に対して、以下に示す5つの基本方針に従って各種取組を展開していくものとします。



基本方針 1 流域全体を見据えた治水対策

頻発する浸水被害を低減させるために、河川や下水道の整備だけでなく、森林や農地の適正な管理・保全等，行政の関係部門や市民等が協力して流域からの雨水の流出を抑制します。総合的な治水対策を推進することにより，京都市域全体の治水安全度を向上させていきます。また，ハード対策だけでなく，土地利用の規制・誘導，浸水実績・想定区域の公表，水害に対する意識啓発などのソフト対策に努め，浸水がおこっても被害を最小限に抑える水防災システムの構築を目指します。

基本方針 2 良好な水環境の実現

わたしたちの暮らしの中で、水との関わりが希薄となりつつある現状に歯止めをかけるために、できるだけ身近なところに良好な水環境の創出を目指します。また、その実現には下水道も万能ではないことを十分に認識し、行政が市民や NPO，事業者等と協働して、河川などの水質の維持・向上，雨天時の水質改善の推進，環境ホルモンをはじめ有害化学物質による新たな水質問題の対策に取り組みます。

基本方針 3 健全な水循環系の回復

京都の水循環系の実態を理解したうえで，都市化によって変化した水循環系を雨水浸透対策などできるだけ自然本来の姿に近づける取組を推進し，普段の河川流量を豊かにするとともに，地下水の保全，ひいてはヒートアイランド現象の緩和に効果を及ぼします。

基本方針 4 ゆたかな水文化の創造

伝統的な京都の水文化を継承するとともに，身近にある水を楽しむ文化を育み，誇りと豊かさが実感できるまちづくりを推進します。また，水を仲立ちとした世代間あるいは新旧住民間のコミュニケーションにより，水と人と生き物の未来について世代を超えて理解しあえる社会を目指します。

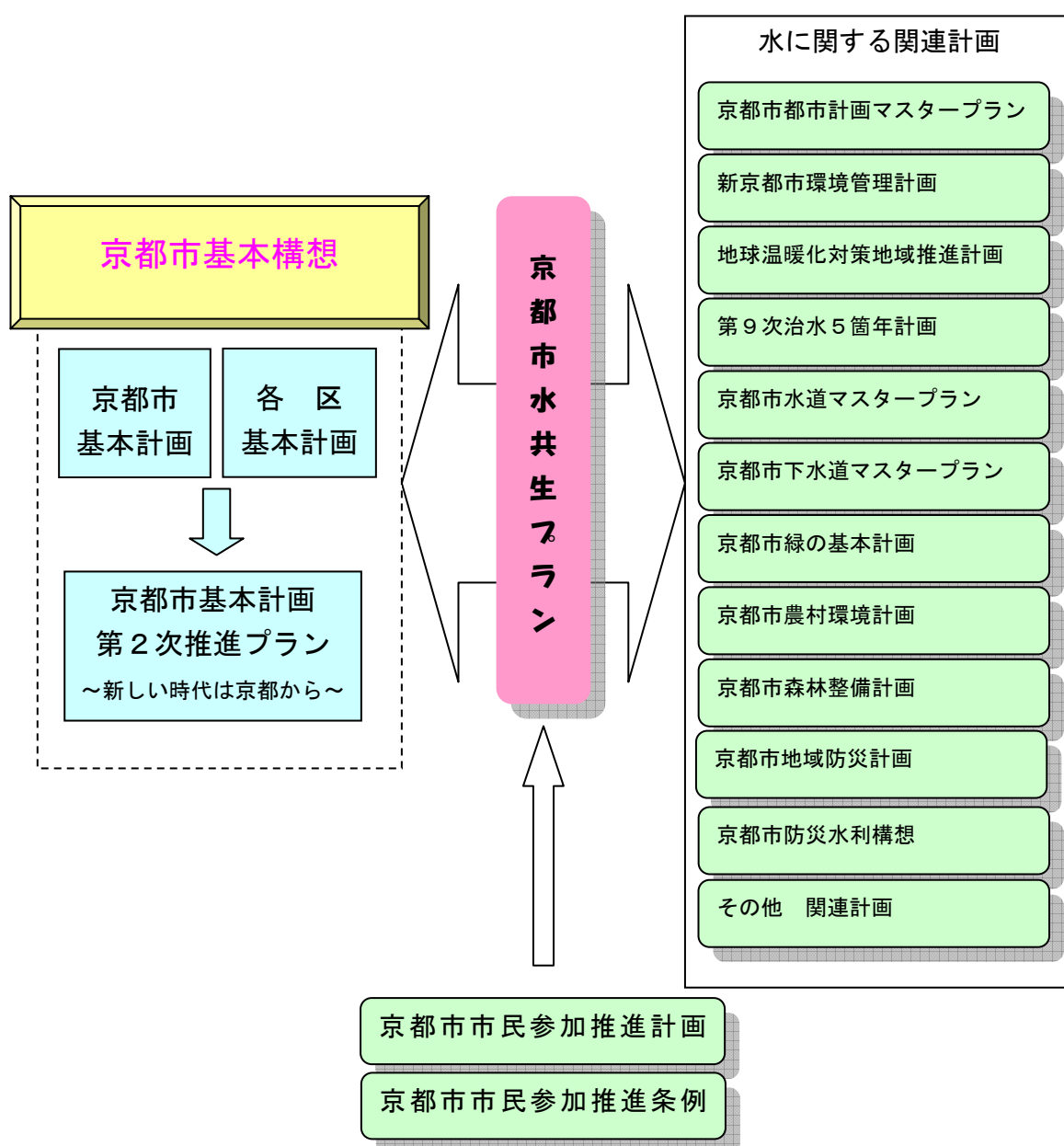
基本方針 5 雨水の利用

地域の防災レベルの向上，身近に水と触れ合える場の創出，さらに，水に関するエネルギー消費の抑制につながることから，貴重な自己水源である雨水の利用を推進します。

2.3 水共生プランの位置付け

京都市では、「安らぎのある暮らし，華やぎのあるまち，まちの基盤づくり」を理念とした京都市基本構想の実現に向けて，京都市基本計画及び各区基本計画のもと“安らぎ 華やぎ 京都21推進プラン”を策定し，各施策を推進しています。その中で，水に関する取組については，各部局が相互の調整を行いつつ策定した基本計画等に基づいて施策を推進しています。

水共生プランは，これらの関連計画において共通する水に関する目指すべき将来像を明らかにし，この実現に向けた基本的方向や方策を関係者で共有することを目的に策定するものです。よって，水共生プランは，市政全般に関する基本的方向を示す京都市基本構想と分野毎の関連計画を水への取組の観点からつなぐものであり，各分野の構想・計画の水に関わる取組を横断的に包含します。



水共生プランと関連計画の体系

3 計画目標と検討・取組事項

5つの基本方針について、より具体的な目標となる10の計画目標を設定し、その実現のために下表に示す取組を推進していくものとします。

計画目標と検討・取組事項

基本方針	計画目標	検討・取組事項
流域全体を見据えた治水対策	総合的な治水対策による治水安全度の向上	河川整備
		下水道整備
		流域における貯留・浸透対策
	洪水被害を最小にする水防災対策の推進	地下空間等の浸水防止策
		住民への情報提供と水防体制の強化
		防災意識の向上
		森林や農地の適正な管理・保全
良好な水環境の実現	市内河川，下流水域の水質保全	土地利用の適正化
		下水道等の整備
		下水高度処理の推進
		発生源での対策
		新たな水質問題への対応
	雨天時の水質改善	合流式下水道の改善
		ノンポイント汚濁負荷対策
健全な水循環系の回復	河川平常流量の回復	せせらぎ等の整備
		生物がすみやすい河川環境の回復
		市民にわかりやすい新たな指標による水環境の評価
	地下水の保全	雨水浸透域の適正な保全
		市街地における雨水浸透の促進
	ヒートアイランド現象の緩和	地下水汚染の防止
		地下水位の保全
ゆたかな水文化の創造	伝統的な水文化，身近な水文化の育成と継承	緑豊かな市街地空間の整備
		市街地における雨水浸透の促進
雨水の利用	雨水利用による水資源の有効活用	水面の保全と創出
		身近な水辺空間の保全・創出
		伝統的な水文化の再生

3.1 流域全体を見据えた治水対策

計画目標 1 総合的な治水対策による治水安全度の向上

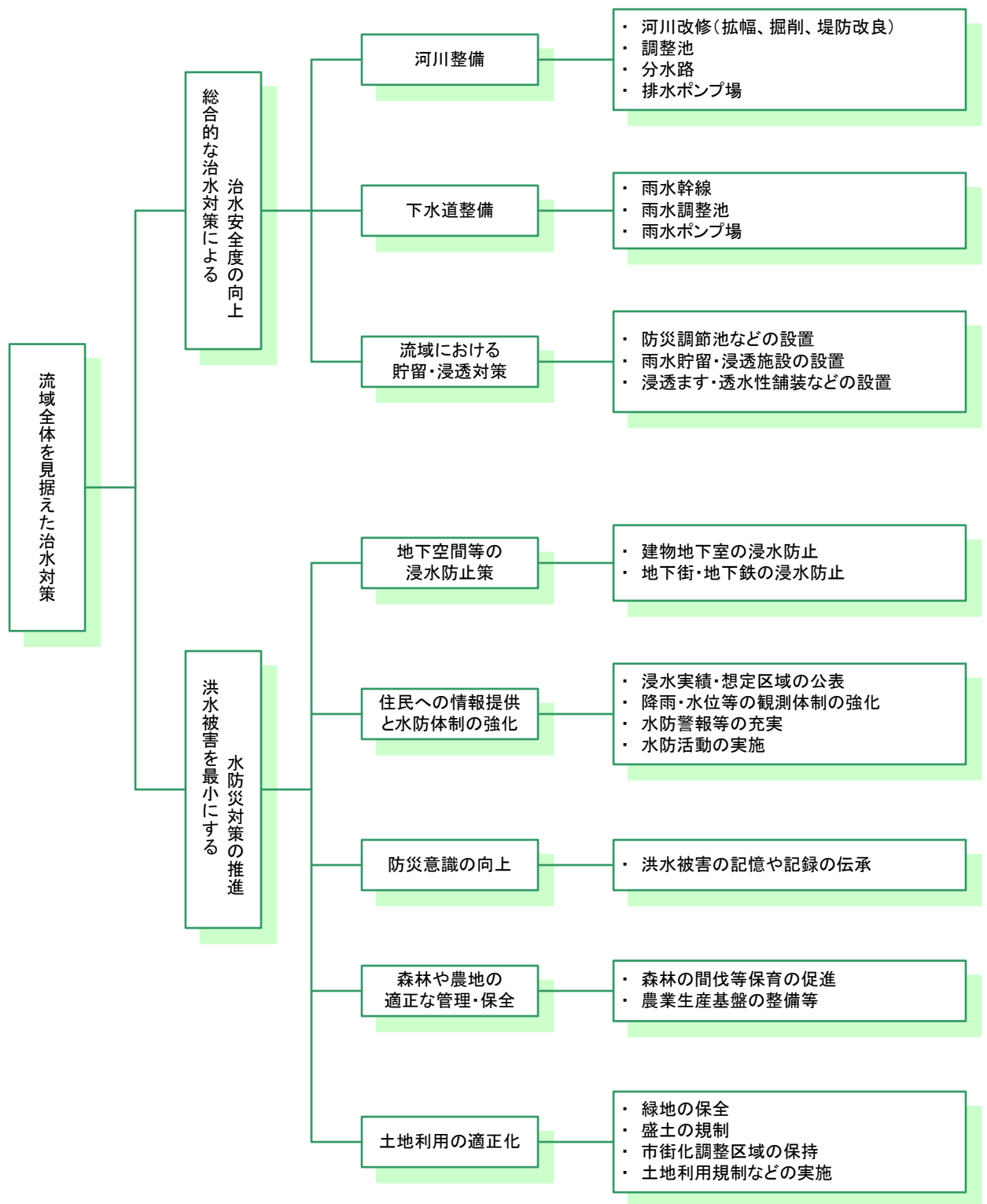
これまで進めてきた河川改修や下水道の雨水対策などを一層効率的に推進するとともに、流域からの雨水の流出を抑制し、河川や下水道の負担を軽減する雨水貯留・浸透施設などの流域対策を行政の関係部局、市民、事業者等が連携して推進し、流域全体の治水安全度の向上を目指します。

検討・取組事項	内 容
河川整備	河川改修，調整池 ¹²⁾ ，分水路 ¹³⁾ などの抜本的な治水対策を，国・京都府及び下水道等の関連事業と連携を図りながら効率的に推進する。
下水道整備	浸水被害の頻発する地区を重点に，雨水幹線 ¹⁴⁾ ，雨水調整池の整備などの雨水対策を河川事業等と連携して効果的に推進する。
流域における貯留・浸透対策	流域からの雨水の流出を抑制する雨水貯留・浸透施設の整備を推進する。特に，京都市などの公共施設における対策に取り組むとともに，開発行為における流出抑制対策も促進する。

計画目標 2 洪水被害を最小にする水防災対策の推進

流域の保水・遊水機能を保全するための土地利用の規制・誘導を図ったり，浸水が想定される地域では，建物の耐水化や地下街などの浸水防止策の推進に努めます。また，降雨状況，河川水位，浸水状況など関連部局間の情報の共有化を図り，適切な避難誘導や水防活動により洪水被害を最小限にとどめます。さらに，日頃からの備えを促すためにも，過去の洪水被害の記憶や記録を伝承していき，防災意識の向上に努めます。

検討・取組事項	内 容
地下空間等の浸水防止策	豪雨により浸水が想定される地域では，浸水被害を軽減させるために建物の地下室や地下鉄，地下街などの浸水防止策の推進に努める。
住民への情報提供と水防体制の強化	水害時に住民が迅速且つ安全に避難でき，被害を最小限にするために浸水想定区域図 ¹⁵⁾ やハザードマップ ¹⁶⁾ などを作成し事前に周知する。また，大雨時の降雨，河川水位，浸水発生状況等の情報を的確に把握して関係部局で共有し，水防警報などによる住民への迅速な情報提供や避難誘導，水防活動等に活用する。
防災意識の向上	日頃からの水害に対する備えを促すために，過去の洪水被害の記憶や記録を伝承していき，防災意識の向上に努める。
森林や農地の適正な管理・保全	持続可能な農林業振興施策の推進により，森林や農地が持つ水源涵養をはじめとした多面的な機能を最大限に発揮させる。
土地利用の適正化	流域が持つ保水機能を維持するため，緑地の保全，盛土の規制などの土地利用の適正化について関係部局が連携して取り組む。



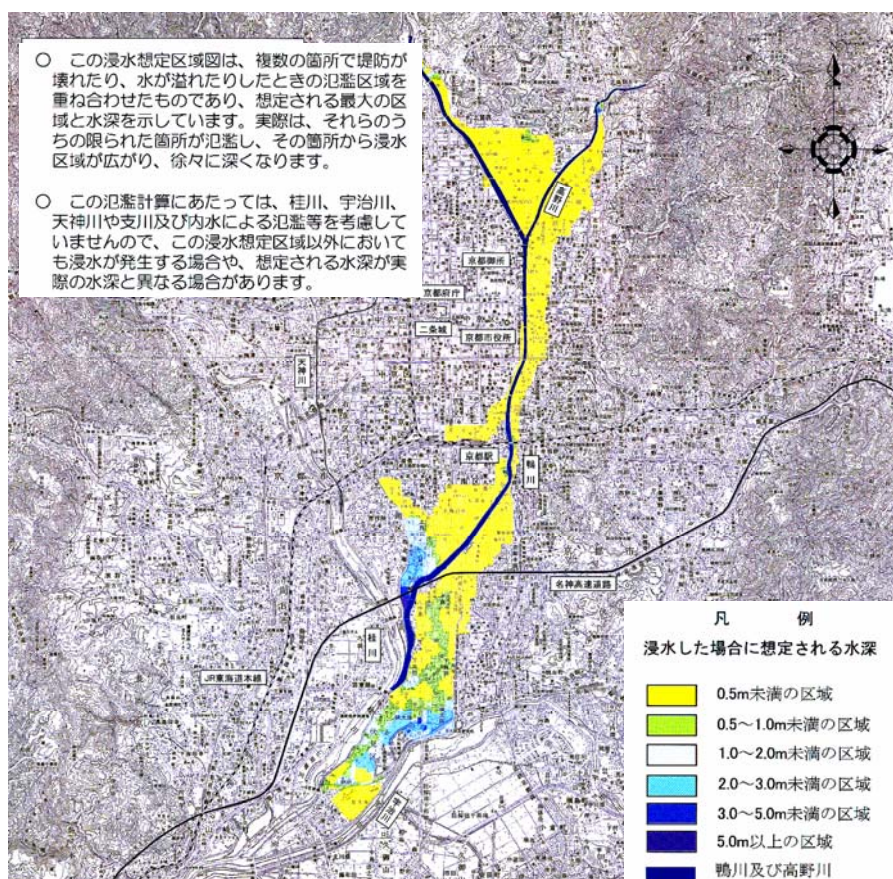
流域全体を見据えた治水対策の体系

例 ① 流域における貯留・浸透対策



出典 流域貯留浸透施設パンフレット (社) 雨水貯留浸透技術協会

例 ② 浸水想定区域の公表



淀川水系鴨川浸水想定区域図（京都府）

流域全体を見据えた治水対策のための検討・取組事項

基本方針	計画目標	検討・取組事項		行動主体		
		大分類	小分類	市民・NPO	事業者等	行政
流域全体を見据えた治水対策	総合的な治水対策による治水安全度の向上	河川整備	河川改修			●
			調整池の整備			●
			分水路の整備			●
			排水ポンプ場の整備			●
		下水道整備	雨水幹線等の整備			●
			雨水調整池の整備			●
			雨水ポンプ場の整備			●
		流域における貯留・浸透対策	防災調整池の設置		●	●
			開発行為における雨水貯留・浸透施設の設置		●	●
			既成市街地への雨水貯留・浸透施設の普及	●	●	●
			公共施設への雨水貯留・浸透施設の設置			●
	洪水被害を対策最小に推進する	地下空間等の浸水防止策	建物地下室の浸水防止	●	●	●
			地下街・地下鉄の浸水防止	●	●	●
		住民への情報提供と水防体制の強化	浸水実績・想定区域の公表			●
			降雨・水位等の観測体制の強化			●
			水防警報等の充実			●
			水防活動の実施	●	●	●
		防災意識の向上	洪水被害の記憶や記録の伝承	●		●
		森林や農地の適正な管理・保全	森林の間伐等保育の促進	●	●	●
			農業生産基盤の整備等	●	●	●
		土地利用の適正化	緑地の保全	●	●	●
			盛土の規制			●
			市街化調整区域の保持			●
			土地利用規制などの実施	●	●	●

3.2 良好な水環境の実現

計画目標 1 市内河川、下流水域の水質保全

下水道の整備により河川水質は大幅に改善されてきましたが、今後も引き続き水質環境基準等の達成を目指すとともに、阪神圏約 1100 万人の水道水源である淀川や閉鎖性水域¹⁷⁾である大阪湾の水質保全のため、下流域へ流出する汚濁物質の削減に努めます。

検討・取組事項	内 容
下水道等の整備	市街化区域では下水道整備困難箇所 ¹⁸⁾ の早期解消を目指し、市街化調整区域では農業集落排水事業 ¹⁹⁾ 、合併処理浄化槽 ²⁰⁾ の普及などと調整を図りながら下水道等による汚水の処理を推進する。
下水高度処理の推進	市内河川や下流水域の水質環境基準を安定的に維持達成するとともに、下流都市の水道水源を保全するために高度処理施設 ²¹⁾ の整備を推進する。
発生源での対策	下水道への過剰な負担となる汚濁物質について、家庭や事業所等の発生源での削減対策を推進する。
新たな水質問題への対応	環境ホルモンをはじめ、有害化学物質による新たな水質問題に対する調査研究を継続して進める。

計画目標 2 雨天時の水質改善

雨天時には合流式下水道から未処理の下水が河川に流出し、河川水質が悪化しています。そのため、合流式下水道区域では、下水管、ポンプ場、下水処理場のそれぞれにおいて改善対策を推進します。また、それ以外の流域についても、流域に堆積した汚濁負荷が降雨とともに流出するノンポイント汚染源の問題について調査研究を進め、効果的な対策をします。

検討・取組事項	内 容
合流式下水道の改善	合流式下水道の改善のため浸水対策機能も兼ね備えた貯留型の増補幹線 ²²⁾ の整備、下水処理場、ポンプ場、雨水吐 ²³⁾ での改善対策を推進する。また、改善効果をさらに高める手段として、雨水をできるだけ下水管に入れない対策（雨水流出抑制施設の整備）を進める。
ノンポイント汚濁負荷対策	雨水とともに流出する汚濁物質の発生を抑制するための対策や、雨水貯留・浸透により排水施設への雨水流入を減らして汚濁物質の流出を抑制する対策に取り組む。

計画目標 3 親しみやすい水辺環境の創出

市民と水との関わりを取り戻すために、雨水・下水処理水などの多様な水源を利用したせせらぎの整備や、暗渠化された水路の開水路化などにより、目に触れる水辺を創出するとともに、水遊びや散策のできる水辺のプロムナード²⁴⁾やポケットパーク²⁵⁾などの良好な水辺環境の創出を目指します。さらに、多様な生物が生息・生育・繁殖できるように、河川固有の生態系に配慮した川づくりや、環境との調和に配慮した農業用水路・ため池の整備等に努めます。

また、水環境の評価に当たっては、これまでの数値的な水質環境基準だけでなく、市民の心に訴えるわかりやすい方法を検討します。

検討・取組事項	内 容
せせらぎ等の整備	市民の身近なところに潤いを取り戻し、市民と水との関わりを取り戻すために、雨水や下水処理水など多様な水源を利用したせせらぎ、ビオトープ ²⁶⁾ 、ポケットパークなど水が目に触れ、水と親しめる水辺の整備を推進し、水遊びや散策できる親しみやすい良好な水辺環境の創出に努める。
生物がすみやすい水辺環境の回復	人間と自然が共存できる水辺を保全・復元するため、生態系に配慮した川づくり、農業用水路・ため池の整備等を進める。
市民にわかりやすい新たな指標による水環境の評価	市民が水環境に関心を持ち、併せて、自主的な行動を促すために、市民の心に訴えるわかりやすい評価方法を検討する。

例 ① 高度処理の推進

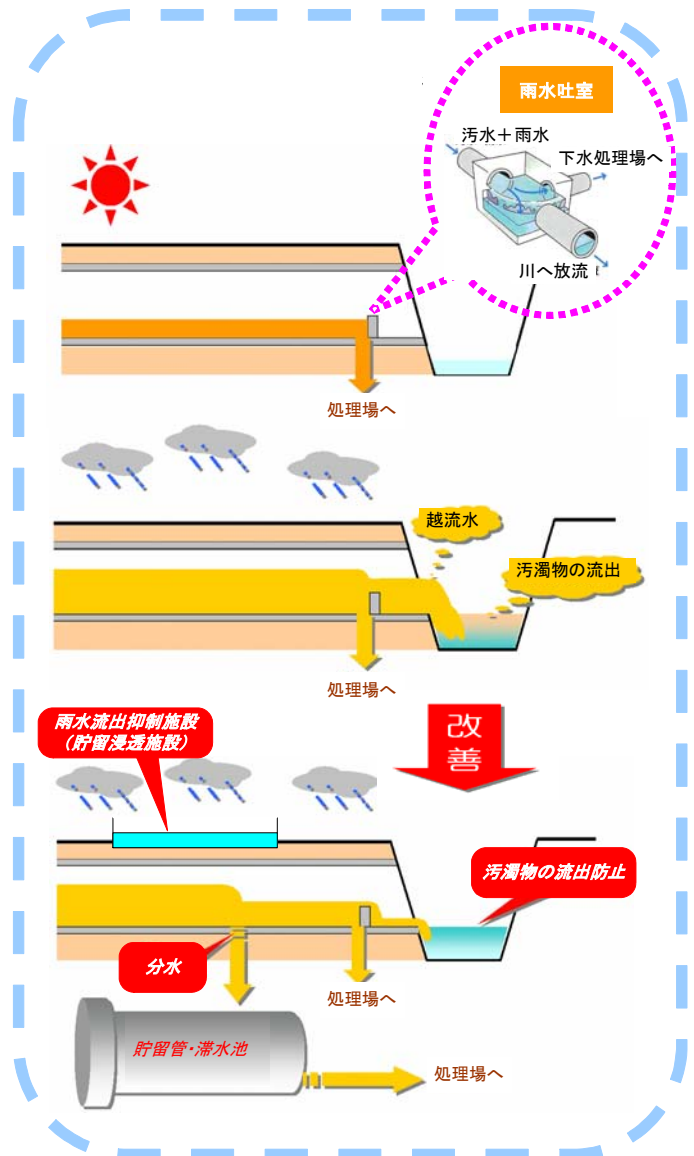
- 京都市の伝統産業である染色工場からの排水が多く流入する吉祥院きつしやういん水環境保全センターでは、放流水の着色により景観が損なわれ問題となっていた。そこで、平成9年に脱色効果のあるオゾン処理²⁷⁾を導入し、清澄な処理水を放流し水辺環境の改善に貢献している。さらに、下流水域の水質保全のため、窒素、リンを除去するための高度処理を導入している。



西高瀬川に放流される高度処理水
(吉祥院水環境保全センター)

例 ② 合流式下水道の改善

- 京都市では合流式下水道の改善のため浸水対策機能も兼ね備えた貯留型の増補幹線の整備を進めており、今後、下水処理場、ポンプ場、雨水吐での改善も組み合わせて積極的に対策を推進していく予定である。今後、改善効果をさらに高める手段として、雨水をできるだけ下水管に入れない対策（雨水流出抑制施設の整備）も重要となる。



合流式下水道改善のイメージ

例 ③ ビオトープの整備

- 京都市立嵯峨野小学校の地下水を利用したビオトープと古い酒樽を利用した雨水タンク（写真中央）。雨水タンクには屋根に降った雨水が集められる。



嵯峨野小学校の水辺

例 ④ 水辺のプロムナード

- 堀川では、つねに清流が流れ、川沿いには遊歩道と豊富な緑地を設け、誰でも気軽に水辺に近づけるような整備を計画している。



水辺のプロムナードの事例（京都市堀川の整備構想図）

良好な水環境の実現のための検討・取組事項

基本方針	計画目標	検討・取組事項		行動主体		
		大分類	小分類	市民・NPO	事業者等	行政
良好な水環境の実現	市内域の河川・水質・下水道保全	下水道等の整備	下水道整備困難箇所の早期解消			●
			市街化調整区域での下水道整備等の促進			●
			下水道への速やかな接続の誘導	●	●	●
		下水高度処理の推進	高度処理施設の新規整備			●
			既存施設の改造等			●
		発生源での対策	家庭、事業所等での排出負荷の削減	●	●	●
		新たな水質問題への対応	調査研究			●
	雨天時改善	合流式下水道の改善	下水管への流入対策	●	●	●
			下水管・ポンプ場の改善対策			●
			処理場の改善対策			●
			雨天時の放流水の実態調査			●
		ノンポイント汚濁負荷対策	汚濁源での発生を抑制	●	●	●
			雨水流出量の削減	●	●	●
	水辺環境の創出・親しみやすい	せせらぎ等の整備	せせらぎ、ビオトープ、ポケットパーク等の整備	●	●	●
			水辺のプロムナードの創出	●		●
			暗渠の開水路化			●
		生物がすみやすい水辺環境の回復	多自然型川づくり	●	●	●
			周辺環境に負荷の少ない河川整備の実施			●
			生態系に配慮した農業用水路・ため池の整備	●	●	●
		市民にわかりやすい新たな指標による水環境の評価	研究・調査・モニタリング	●	●	●

3.3 健全な水循環系の回復

計画目標 1 河川の平常流量の回復

地下水の涵養により、平常時の河川流量を構成する自然流量の回復を目指し、上流域に広がる森林、市街地内の雑木林、寺社林、水田、畑など、水源涵養に効果が期待される緑地、農地の保全を図るとともに、市街地ではコンクリートやアスファルトなどによって被覆された区域の雨水を対象に、雨水浸透施設の設置を推進します。

検討・取組事項	内 容
雨水浸透域の適正な保全	健全な水循環系の確保のために、水源涵養機能が期待される上流域の森林や農地などの緑地を関係部局が連携して保全するとともに、適正な維持管理を推進する。
市街地における雨水浸透の促進	市街化の進行によりコンクリートやアスファルト、屋根などの不透透域が拡大しているため、公共施設はもとより、開発地域や既成市街地において、現地の条件に応じて雨水浸透を促進し、地下水涵養量を増加させる。

計画目標 2 地下水の保全

地下水の実態把握や地下水汚染防止のために地下水のモニタリング²⁸⁾等を関係部局が協力して実施します。また、地下水位の保全のために地下水涵養機能の確保に努めます。

検討・取組事項	内 容
地下水汚染の防止	古くから酒造業者などの産業用水や生活用水として利用されてきた京都の豊富で良質な地下水の汚染を防止し保全するために、関係部局が連携して地下水のモニタリングを実施する。
地下水位の保全	健全な水循環系を確保するため、関係部局が連携して地下水利用の適正化を図る。

計画目標 3 ヒートアイランド現象の緩和

ヒートアイランド現象の緩和には気化熱²⁹⁾による冷却効果などが有効と考えられています。そのため、屋上緑化³⁰⁾、街路樹、農地、公園・緑地などの市街地内の緑の保全・整備、水面の保全と創出、透水性舗装³¹⁾による雨水浸透の促進などを、市民、事業者、行政等が連携して推進します。

検討・取組事項	内 容
緑豊かな市街地空間の整備	葉からの蒸散による気化熱の冷却効果がヒートアイランド現象の抑制に効果があるといわれており、街路樹、敷地・屋上・壁面の緑化、緩衝緑地 ³²⁾ など市街地内の緑を市民・NPO、事業者、行政等が連携して整備する。
市街地における雨水浸透の促進	不浸透域の拡大により市域の保水力が低下したことはヒートアイランド現象の一因といわれている。舗装内の水が気化熱を消費することにより路面の温度を低下させ、ヒートアイランド現象の抑制に効果が期待されている市街地での透水性舗装などの雨水浸透対策を、市民、事業者、行政等が連携して推進する。
水面の保全と創出	水が蒸発するときの気化熱で周囲の温度を下げるのが期待できるため、市街地内の農地、ため池、水辺等の保全や創出を図るとともに、昔ながらの打ち水等の普及に努める。

例 ① 透水性舗装の整備

【^{おいけ}御池シンボルロード】

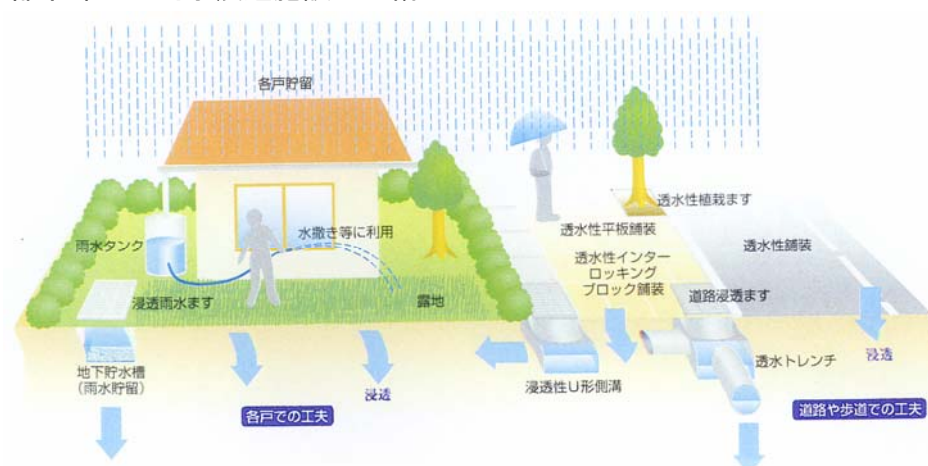


全 景



透水性ブロック

例 ② 都市部での雨水浸透施設の整備



健全な水循環系回復のための検討・取組事項

基本方針	計画目標	検討・取組事項		行動主体		
		大分類	小分類	市民・NPO	事業者等	行政
健全な水循環系の回復	河川の平常流量の回復	雨水浸透域の適正な保全	農地・森林の保全	●	●	●
		市街地における雨水浸透の促進	開発行為に対する雨水浸透施設の設置	●	●	●
			既成市街地への雨水浸透施設の普及	●	●	●
			公共施設への雨水浸透施設の設置			●
	地の下保水全	地下水汚染の防止	地下水のモニタリング	●	●	●
		地下水位の保全	地下水の適正な利用	●	●	●
	ヒートアイランド現象の緩和	緑豊かな市街地空間の整備	街路樹や緑地の整備	●	●	●
			屋上、壁面緑化等の推進		●	●
		市街地における雨水浸透の促進	透水性舗装の整備等		●	●
		水面の保全と創出	農地、ため池、水辺等の保全・創出	●	●	●
			打ち水の普及	●	●	●

3.4 ゆたかな水文化の創造

計画目標 1 伝統的な水文化、身近な水文化の育成と継承

京都では高瀬舟、友禅流し等、古来より水と密接な関わりを持っていましたが、市民生活や社会の変遷とともに水との関わりが薄れてきました。その一方で、近年は身近に多様な水の姿を求める声も生まれ、人びとを水辺に取り戻す動きも始まっています。そこで、伝統的な水文化の再生のために土木・文化遺産の保全・活用を図ったり、身近な水文化の創造のために、人と水が身近に接することができるような取組の推進に努めます。

検討・取組事項	内 容
身近な水辺空間の保全・創出	目に見える水辺を増やすことで、水と市民との関わりを深め、水に対する意識を向上することを目的に、住民の知識や発想を最大限に活用して身近な水辺空間の保全・創出に努める。
伝統的な水文化の再生	京都特有の伝統的な水文化の再生のために土木・文化遺産の保全・活用を図る。また、身近な水文化の創造のために、人と水が身近に接することができるような取組の推進に努める。

例 ① 地域での水辺の創出

【路地尊^{ろじそん}の整備（墨田区の事例）】



提供 雨水市民の会
災害時の水源として雨水を確保

【町家の井戸】



例 ② 住民参加による取組

【堀川水辺環境整備】





ワークショップの状況

【崇仁^{すうじん}ビオトープ】



崇仁小学校内でビオトープ池を手作りしている様子

例 ③ 水文化の再生

<p>ごうがわ 【濠川】</p>  <p>豊臣秀吉の伏見城築城の際外堀として開削されたもので、明治になって疏水とつながれた。</p>	<p>じゅっこくぶね 【十石舟】</p>  <p>江戸時代から明治末期にかけて酒や米を運搬した木造舟で、伏見と大阪を往来した。</p>
---	---

ゆたかな水文化の創造のための検討・取組事項

基本方針	計画目標	検討・取組事項		行動主体		
		大分類	小分類	市民・NPO	事業者等	行政
ゆたかな水文化の創造	伝統的な水文化の育成と継承	身近な水辺空間の保全・創出	地域での雨水利用施設の整備	●	●	●
			住民参加型取組の推進	●	●	●
			京都を代表する河川空間の景観保全	●	●	●
		伝統的な水文化の再生	水に関する土木・文化遺産の保全・活用	●	●	●

3.5 雨水の利用

計画目標 1 雨水利用による水資源の有効活用

身近な水源である雨水を積極的に活用するために、公共公益施設、事業所のみならず、個人住宅等における雨水利用を推進します。これにより、地域の防災レベルを高めるだけでなく、また、地域社会のコミュニケーションの場、子供たちの水遊びの場が生まれ、水に触れあう機会が増えることにより水の大切さや水問題を考えるきっかけになることも期待できます。

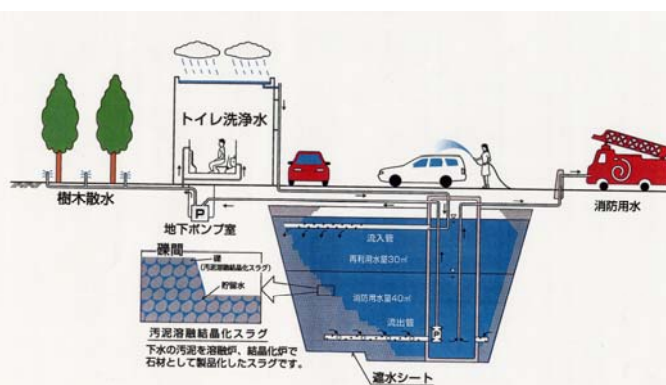
検討・取組事項	内 容
雨水貯留施設の整備	<p>雨水利用を推進するため、市民、事業者、行政等が連携して施設、建物などへの雨水利用システムの導入や、一般住宅などでの雨水利用を進める。</p> <p>また、災害時に必要となる消火用水、生活用水を確保し、地域防災力を向上させるために、共同で利用できる雨水貯留施設の整備を推進する。</p>

例 ① 雨水貯留施設の整備

【公共施設での雨水利用施設】



やましな
上下水道局みなみ管路管理センター山科支所



散水、トイレ洗浄水、消防用水として利用

【戸建て住宅での雨水利用施設】



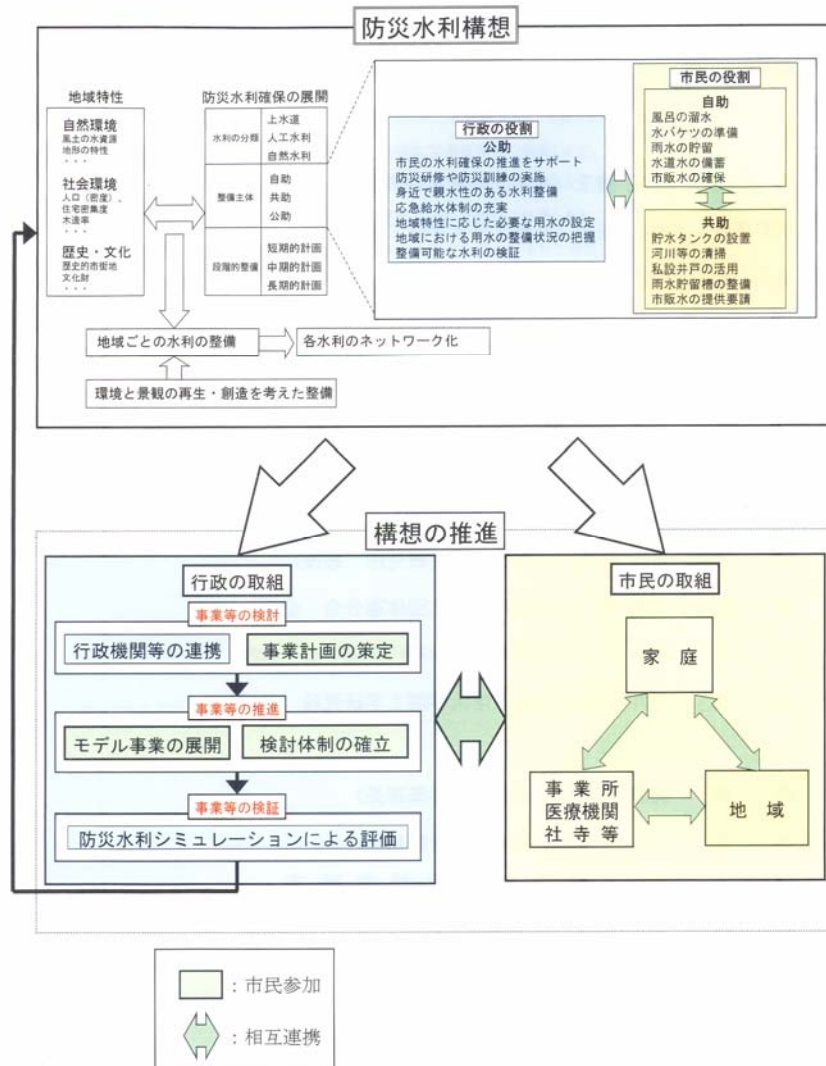
【小学校の雨水タンク】



花壇の散水に利用（梅津北小学校）

例 ② 京都市防災水利構想の推進

大地震の発生により、ライフライン施設が損傷を受け、上水道施設からの水の供給が絶たれた時、消火や生活のために必要な水を確保するには、身近にあるあらゆる水を命を守る水として活用しなければなりません。雨水を普段から貯留し、災害時の水利として活用することは有効な方法です。京都市では、公共施設への雨水貯留施設の整備や市民自らが雨水の貯留を実践する等、「防災水利構想の推進」において雨水の有効利用に取り組んでいます。



京都市防災水利構想（総合行政の展開と市民の協働による推進）

雨水の利用のための検討・取組事項

基本方針	計画目標	検討・取組事項		京都市関連計画	行動主体		
		大分類	小分類		市民・NPO	事業者等	行政
雨水の利用	雨よの水を有効に活用する	雨水貯留施設の整備	公共施設、事業所等への雨水利用システム導入	新京都市環境管理計画 地球温暖化対策地域推進計画 京都市防災水利構想		●	●
			各戸雨水貯留施設の整備の推進		●		●
			防災水利構想の推進		●	●	●

4 推進方策

4.1 市民・NPO・事業者・行政等の連携

検討・取組事項には、京都市の水に関わる多様な要素、立場、取組が含まれています。したがって、その推進にあたっては、行政、市民、NPO、事業者等の様々な立場の人々が計画・立案、意思決定、実施、評価の一連の過程に応じて、それぞれの役割を十分に果たすことが必要です。そのため、「市民参加推進条例」、「市民参加推進計画」に基づき、情報の公開と共有を図り、市民と行政などの役割分担を明確にし、市民と行政の厚い信頼関係とパートナーシップのもとで取組を推進します。

(1) 住民参加から住民主体へ

京都には、以前より町内会などの成熟したコミュニティがあり、今後は、これら地域住民の活動と行政が一層連携する必要があります。さらに、行政主体・住民参加の枠組から転換し、取組によっては地域の住民やNPOを主体とした活動を行政が支援することを目指します。また、将来の地域の担い手となる若い人たちが関わりやすい環境づくりに努めます。

(2) 行政のサポート、事業者等との連携

各戸での雨水貯留・浸透施設の設置など、市民主体の取組に対する助成制度の導入など、事業者、市民が取り組みやすい環境づくりのために、行政の政策的な支援を検討します。また、モデル地域における雨水流出抑制対策の義務化などを、行政で政策誘導することも検討します。

(3) 情報の公開と共有

市民の主体的な参画を促すために、また、市民の持つ有益な情報を行政が把握するために、市民と行政の間で情報交換を促進し共有する仕組みを検討します。

市民参加推進のための考え方

市政運営の各過程における参加の制度や仕組みの拡充に向けた取組	政策の形成	政策形成過程への市民意見の反映
		市民ニーズの把握
	政策の実施	
	政策の評価	
	市民参加を進めるための行政の体制づくり	市職員の意識改革と能力の向上
庁内体制の整備		
権限の適切な配分		
地域における市民主体のまちづくり活動とその支援	自主的な活動を始める手がかりの提供	
	市民力・地域力を高める取組への支援	地域の力を集める取組
		地域の力を高める取組
		組織づくりと地域間の交流・ネットワークづくり
	行政の総合的活動支援	
情報の提供と公開	インターネットを活用した情報の提供	
	情報共有への取組	
	情報公開制度の充実	

出典 市民参加推進計画

4.2 行政の継続的取組

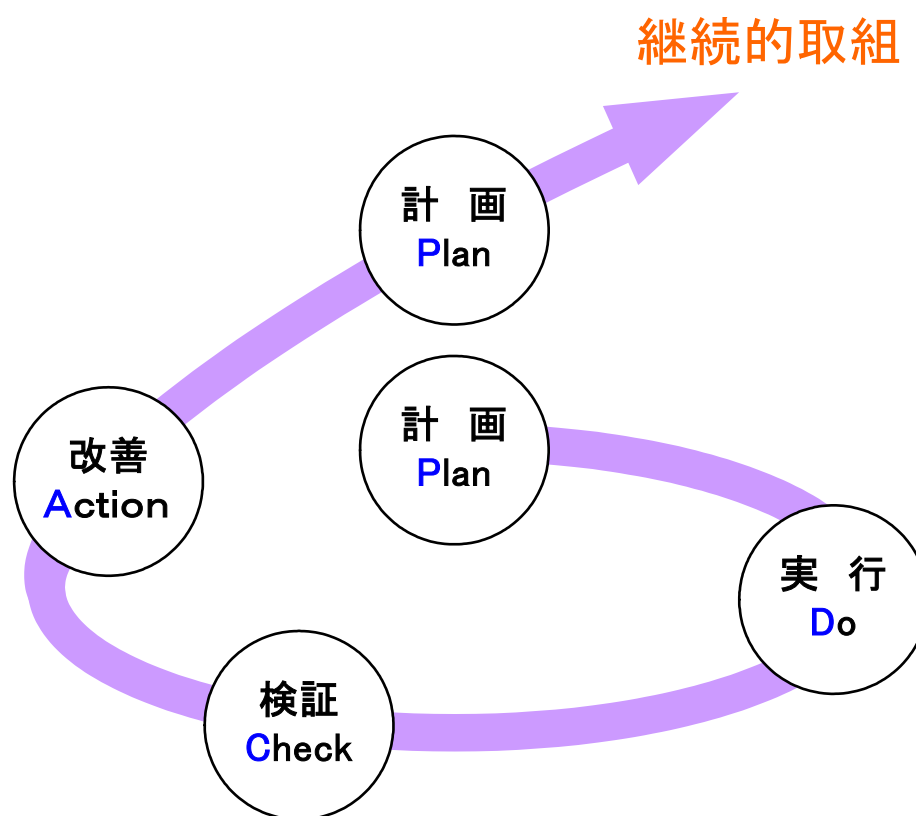
行政、市民、NPO、事業者等様々な立場の人たちが具体的に取り組むべき課題や事柄について、どのように活動したり行動したりするのかを示す行動計画を策定していく必要があります。さらに、策定した計画は、その効果を検証し、必要に応じて計画を見直し改善するという PDCA サイクルにより継続的に取り組むことが重要です。

(1) 行動計画の策定

雨水貯留・浸透施設の整備等のハード対策を行政が率先して進めるだけでなく、市民、NPO、事業者等が重要な役割を担うソフト対策や環境学習の場を充実させる必要があります。また、水に関わる取組は多岐にわたっており、行政の様々な部局が協働で実施する必要があります。そのため、各種取組の行動計画を策定するとともに、実施のためのルールや基準等を整備し関係部局が連携して取り組みます。

(2) 実行・検証・改善の継続的取組

取組を推進するには、地域の住民やそれぞれの分野の専門家を交えた調査研究を行い、取組に反映させるとともに、①行動計画の策定（Plan）、②行動計画に従った実行（Do）、③その効果の検証（Check）、④計画の見直し・改善（Action）という息の長い継続的な取組が必要です。このような取組を継続的に実施していくためのシステムを検討します。



PDCA サイクルによる継続的取組

取組の体系と役割分担

基本方針	計画目標	検討・取組事項		京都市関連計画	行動主体			
		大分類	小分類		市民・NPO	事業者等	行政	
流域全体を見据えた治水対策	総合的な治水対策による治水安全度の向上	河川整備	河川改修	第9次治水5箇年計画 京都市下水道マスタープラン 京都市都市計画マスタープラン			●	
			調整池の整備				●	
			分水路の整備				●	
			排水ポンプ場の整備				●	
		下水道整備	雨水幹線等の整備				●	
			雨水調整池の整備				●	
			雨水ポンプ場の整備				●	
		流域における貯留・浸透対策	防災調整池の設置			●	●	
			開発行為における雨水貯留・浸透施設の設置			●	●	
			既成市街地への雨水貯留・浸透施設の普及		●	●	●	
	洪水被害を最小に推し進める	地下空間等の浸水防止策	建物地下室の浸水防止	京都市地域防災計画	●	●	●	
			地下街・地下鉄の浸水防止		●	●	●	
			浸水実績・想定区域の公表				●	
			降雨・水位等の観測体制の強化				●	
			水防警報等の充実				●	
			水防活動の実施		●	●	●	
			防災意識の向上		洪水被害の記憶や記録の伝承	●		●
			森林や農地の適正な管理・保全		森林の間伐等保育の促進	京都市農村環境計画 京都市森林整備計画	●	●
		農業生産基盤の整備等			●	●	●	
		土地利用の適正化	緑地の保全	京都市都市計画マスタープラン	●	●	●	
			盛土の規制				●	
			市街化調整区域の保持				●	
			土地利用規制などの実施		●	●	●	
		市内城河の水質保全・下流全	下水道等の整備	下水道整備困難箇所の早期解消	新京都市環境管理計画 京都市都市計画マスタープラン 京都市下水道マスタープラン			●
				市街化調整区域での下水道整備等の促進				●
				下水道への速やかな接続の誘導		●	●	●
下水高度処理の推進	高度処理施設の新規整備					●		
	既存施設の改造等					●		
発生源での対策	家庭、事業所等での排出負荷の削減		●	●		●		
新たな水質問題への対応	調査研究		新京都市環境管理計画			●		
雨水天候改善	合流式下水道の改善		下水管への流入対策	新京都市環境管理計画 京都市下水道マスタープラン	●	●	●	
			下水管・ポンプ場の改善対策				●	
			処理場の改善対策				●	
	ノンポイント汚濁負荷対策	雨天時の放流水の実態調査				●		
		汚濁源での発生を抑制 雨水流出量の削減	●		●	●		
水辺環境の創出 親しみやすい	せせらぎ等の整備	せせらぎ、ビオトープ、ポケットパーク等の整備	京都市都市計画マスタープラン 新京都市環境管理計画 第9次治水5箇年計画 京都市緑の基本計画	●	●	●		
		水辺のプロムナードの創出	●		●			
		暗渠の開水路化			●			
	生物がすみやすい水辺環境の回復	多自然型川づくり	京都市都市計画マスタープラン 第9次治水5箇年計画 京都市緑の基本計画	●	●	●		
		周辺環境に負荷の少ない河川整備の実施			●			
		生態系に配慮した農業用水路・ため池の整備	京都市農村環境計画	●	●	●		
	市民にわかりやすい新たな指標による水環境の評価	研究・調査・モニタリング		●	●	●		
健全な水循環系の回復	河川の平常流量の回復	雨水浸透域の適正な保全	農地・森林の保全	京都市都市計画マスタープラン 新京都市環境管理計画 京都市農村環境計画 京都市森林整備計画	●	●	●	
		市街地における雨水浸透の促進	開発行為に対する雨水浸透施設の設置	京都市都市計画マスタープラン 新京都市環境管理計画 第9次治水5箇年計画 京都市下水道マスタープラン 地球温暖化対策地域推進計画	●	●	●	
			既成市街地への雨水浸透施設の普及	●	●	●		
			公共施設への雨水浸透施設の設置			●		
	地の下保全	地下水汚染の防止	地下水のモニタリング	新京都市環境管理計画	●	●	●	
		地下水位の保全	地下水の適正な利用		●	●	●	
	ヒートアイランド現象の緩和	緑豊かな市街地空間の整備	街路樹や緑地の整備	新京都市環境管理計画 地球温暖化対策地域推進計画 京都市緑の基本計画	●	●	●	
			屋上、壁面緑化等の推進		●	●		
		市街地における雨水浸透の促進	透水性舗装の整備等	京都市都市計画マスタープラン 地球温暖化対策地域推進計画		●	●	
		水面の保全と創出	農地、ため池、水辺等の保全・創出 打ち水の普及		●	●	●	
ゆたかな創造文化の	伝統的な水文化の継承・育成	身近な水辺空間の保全・創出	地域での雨水利用施設の整備	京都市都市計画マスタープラン 第9次治水5箇年計画 京都市下水道マスタープラン 京都市防災水利構想	●	●	●	
			住民参加型取組の推進		●	●	●	
			京都を代表する河川空間の景観保全	新京都市環境管理計画	●	●	●	
		伝統的な水文化の再生	水に関する土木・文化遺産の保全・活用		●	●	●	
雨水の利用	雨よりの水有効利用に活用	雨水貯留施設の整備	公共公益施設、事業所等への雨水利用システム導入	新京都市環境管理計画 地球温暖化対策地域推進計画 京都市防災水利構想		●	●	
			各戸雨水貯留施設の整備の推進		●		●	
			防災水利構想の推進		●	●	●	

資 料

用語集

1) 環境用水

景観の改善, 親水空間の創出, 動植物の生息・生育環境の保全等を目的として, 河川や水路等に水を導入するもの。

2) 水質環境基準

人の健康を保護し, 生活環境を保全する上で維持されることが望ましいとして環境基本法で定められた水質汚濁に係る環境基準。

3) 合流式下水道

汚水及び雨水を同一の管きよで排除し処理する下水道の方式。これに対し, 汚水及び雨水を別々の管きよで排除する方式を分流式下水道という。

4) 環境ホルモン

動物の生体内に取り込まれた場合, 本来その生体内で営まれている正常なホルモン作用に影響を及ぼす外因性の物質。

5) ノンポイント汚染源(面源汚染源)

家庭, 事業所等の汚染源を特定できるポイント汚染源(点源汚染源)に対し, 路面, 屋根, 農地等の面的に散在している汚染源。ノンポイント汚染源に起因する汚濁負荷は, 雨水の流出に付随して発生する。

6) BOD

生物化学的酸素要求量(単位:mg/l)。水中の有機物が微生物によって酸化分解される際に消費される酸素の量で, 水の汚濁状態を表す指標の一つである。数値が大きければ, 水中に有機汚濁物質が多く, 水質汚濁が進んでいることを意味する。

7) COD

化学的酸素要求量(単位:mg/l)。酸化剤を用いて水中の有機物等を一定条件のもとで酸化分解する際に消費される酸素の量で, BOD と同様, 水の汚濁状態を表す指標の一つである。

8) SS

浮遊物質(単位:mg/l)。水中に浮遊している物質をいう。コロイドのような小さな粒子から, 比較的大きい粒子まで種々の形態で存在する。

9) ヒートアイランド現象

都市でのエネルギー廃熱や蓄積材としてのコンクリート等の影響などにより、都市内の気温が郊外と比較して高くなる現象。

10) 冬日

日最低気温が 0℃未満の日。

11) 簡易水道

市町村の小規模な上水道。水道法で、給水人口が 101 人以上、5,000 人以下の地域の上水道をいう。

12) 調整池

流域から流入する雨水を一時貯留し、下流の河川などの施設の負担を軽減させる施設。

13) 分水路

直接他の河川に放流するため、河川の途中から新しく人工的につくる水路。洪水量が増大して河川の改修だけでその洪水を負担することが困難な場合などに設けられる。

14) 雨水幹線

浸水対策のために布設する根幹的な下水道の管きよ。貯留機能をもたせたものもある。

15) 浸水想定区域図

洪水時の円滑かつ迅速な避難を確保するため、洪水予報河川(洪水により相当な損害を生じる恐れのある河川で、国土交通大臣および都道府県知事が指定する)について、河川整備計画に想定される規模の降雨により氾濫した場合に、浸水が想定される区域を示したもの。

16) ハザードマップ

災害における被害を最小限に食い止めることを目的として、予想される災害の程度やその対応方法、浸水情報、避難情報等の各種情報を分かりやすく図面等で表示したもの。

17) 閉鎖性水域

内湾、内海、湖沼のように、水の滞留時間が比較的長く、水の交換がされにくい水域。水質汚濁が進行しやすく、また、その回復が容易でない。栄養塩類の流入による富栄養化が起こりやすい。

18) 下水道整備困難箇所

下水道未整備箇所の内、地権者の不同意、関係機関の不許可及び施工が困難であるなどの理由により下水道の整備が行われていない箇所。

19) 農業集落排水事業

農業集落におけるし尿、生活雑排水等の汚水进行处理するための事業手法。主として農業用排水の水質保全寄与を目的として行われている。

20) 合併処理浄化槽

し尿のみを処理する単独浄化槽に対し、し尿と雑排水を合わせて処理する浄化槽。下水道整備区域外で環境浄化を目的として用いられる。

21) 高度処理施設

下水処理において、有機物除去を主とした通常の二次処理で得られる処理水の水質以上に、さらに高度に処理する施設。

22) 増補幹線

既存の下水道幹線の能力を補うため、別に新たに追加して建設する管きょ。

23) 雨水吐

汚水と雨水を同一の管で収集する合流式下水道において、雨天時に一定量以上の下水を分水し、河川等の水域に直接放流するための放流口。

24) プロムナード

歩行者用の公共空間で、散策、回遊することができる空間。

25) ポケットパーク

都市環境を改善するために設けられた、公開空地や密集住宅地の中に設けられた小公園等のこと。

26) ビオトープ

ドイツ語で、生物の生息空間という意味。自然の状態で多様な動植物が生息するある程度まとまった場所。

27) オゾン処理

消毒, 脱臭, 脱色, 微量有機物の分解などを目的とし, 液体や気体とオゾンを接触させて処理する方法。下水処理において塩素消毒に代わり, 脱色等もあわせて行うために用いられる。

28) モニタリング

実態把握や対策計画策定のため, 環境の状態を継続的に監視し調査すること。

29) 気化熱

液体の物質が気体になるときに周囲から吸収する熱。

30) 屋上緑化

建築物の屋上部分に緑化を行うこと。

31) 透水性舗装

雨水を直接舗装体に浸透させ, 舗装体の貯留及び路床の浸透能力により, 雨水を地中へ面状に分散浸透させる舗装。

32) 緩衝緑地

大気汚染, 騒音, 振動, 悪臭等の公害の緩和や, 災害の防止を図ることなどを目的とする緑地。互いに土地利用を異にする境界部において設けられる。

「京都市水共生プラン」の策定経過

1 主な経過

平成 13 年 2 月	2 月市会公共下水道事業特別会計予算付帯決議 「雨水流出抑制対策について京都市の基本政策として研究検討する体制の確立」
平成 13 年 12 月～ 平成 14 年 9 月	建設局・下水道局・都市計画局・消防局の関係課による検討委員会(計6回)開催 雨水流出抑制対策実施要綱(素案)作成, 推進体制のあり方等の検討
平成 14 年 11 月～	技術管理委員会技術検討部会における全庁的な情報共有と意見交換 今後の進め方についてアンケート調査を実施
平成 15 年 2 月	「京都市水共生プラン」の策定について記者発表
平成 15 年 3 月～ 4 月	「京都市水共生プラン」の基本的な考え方のパブリックコメントを実施
平成 15 年 9 月	「京都市水共生プラン」基本方針策定委員会を設置 (委員長:中川博次 立命館大学理工学部教授)
平成 15 年 9 月～ 12 月	「京都市水共生プラン」基本方針策定委員会開催 (計4回開催)
平成 16 年 1 月 16 日	「京都市水共生プラン」基本方針提言の受理
平成 16 年 3 月	「京都市水共生プラン」の策定

2 「京都市水共生プラン」基本方針策定委員会

(1) 開催状況

	開催日	会 場	内 容
第1回	平成15年9月21日	平安会館	治水
第2回	平成15年11月16日	京都市勧業館	水環境，水文化
第3回	平成15年12月6日	京都市勧業館	水循環，雨水利用
第4回	平成15年12月21日	京都市国際交流会館	提言まとめ

(2) 委員会名簿

委員長	なかがわ ひろじ 中川 博次	立命館大学理工学部教授，京都大学名誉教授
委員	うへだ まさゆき 上田 正幸	京都・雨水利用をすすめる会代表
	かだ ゆきこ 嘉田 由紀子	京都精華大学人文学部教授
	くりやま かずひで 栗山 一秀	月桂冠大倉記念館名誉館長
	せきね えいじ 関根 英爾	京都新聞社論説委員
	のだ たけひと 野田 岳仁	立命館大学学生，ユースウォータージャパン代表
	ふじい しげお 藤井 滋穂	京都大学大学院工学研究科附属 環境質制御研究センター教授
	ますだ けいこ 増田 啓子	龍谷大学経済学部教授
	やまもと ゆう 山本 ゆう	堀川高校学生

五十音順，敬称略

京都市水共生プラン

～私たちの手でみずみずしい都市とくらしの再生を！～

京都市建設局水と緑環境部河川課

〒604—8571

京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町 488

TEL (075) 222—3591 FAX (075) 213—1213

京都市上下水道局下水道部計画課

〒601—8004

京都市南区東九条東山王町 12

TEL (075) 672—7840 FAX (075) 682—2719

平成 16 年 4 月発行 京都市印刷物 第 163020 号

